

吉田忠生：福岡県朝倉市（甘木）のオキチモズクの生育状況

愛媛県東温市の「お吉泉」で天然記念物に指定されているオキチモズク *Nemalionopsis tortuosa* Yoneda et Yagi は、その後九州のいくつかの場所でも生育が確認され、長崎県土黒川、熊本県満願寺川でも天然記念物に指定されている。

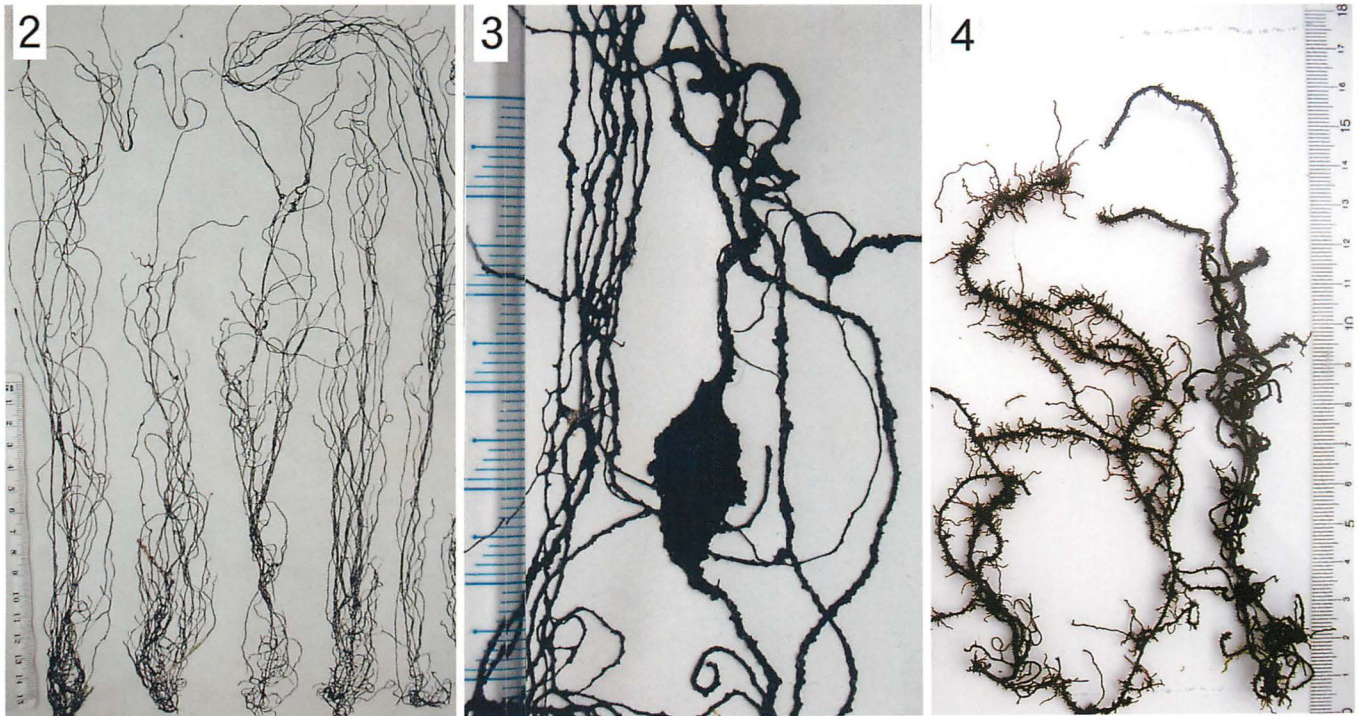
福岡県朝倉市（旧甘木市）においては、黄金川のスイゼンジノリ養殖場でこの種の生育が1989年11月に確認され、右田・高崎（1991）により報告された。しかし、その後この場所では消失してしまった。2004年になって市内下浦地区の小石原川に沿った水路でオキチモズクが発見され、西日本新聞2005年2月12日の紙面に掲載された。この水路（Fig. 1）は小石原川から取水した水が常時流れていて、上浦集落を通過して小石原川の東側に平行しており、栄田橋近くで小石原川に放水される。水量に多少の変動はあるけれども0.2-0.3 m/sec以上の流速がある。水温は1月に約11°C、7月には23.1°Cであった。この水路のうち、約1000 mの範囲でオキチモズクの生育が認められ、下浦橋の付近に最も多い。この場所については、その後毎月調査して生育経過を見ている。2005年9月から2006年9月までの状況を纏めてみた。

2005年9月には水路西面の明るい場所で側壁にごく短い直立体が認められた。その前に8月には前年からの直立藻体は枯死流出したのであろう。藻体は細く分枝は少ない。2006年2月まで急速に伸長して、長いものでは約1 mに達した



Fig. 1. A stream where *Nemalionopsis tortuosa* grows. Amagi-Shimoura district, Asakura City, Fukuoka Pref. Photo July 11, 2006.

(Fig. 2). 2月下旬にこの水路の上流で事故があり、多量の汚水が流入して、水路の壁面にも底面にも糸状の細菌が全面を被って、オキチモズクにも他のカワゴケや水草の生育にも被害があった。そのため3月上旬にはオキチモズクの藻体はやや減少し、藻長も短くなった。その後水質が回復するとともに藻長も伸びた。この頃から藻体には扁平な部分が生じ、瘤



Figs 2-4. *Nemalionopsis tortuosa*. 2. A specimen of thalli collected on December 12, 2005. 3. A portion of older thallus with flattened parts, collected on June 11, 2006. 4. Many young shoots developed on older thallus, collected on September 12, 2006.

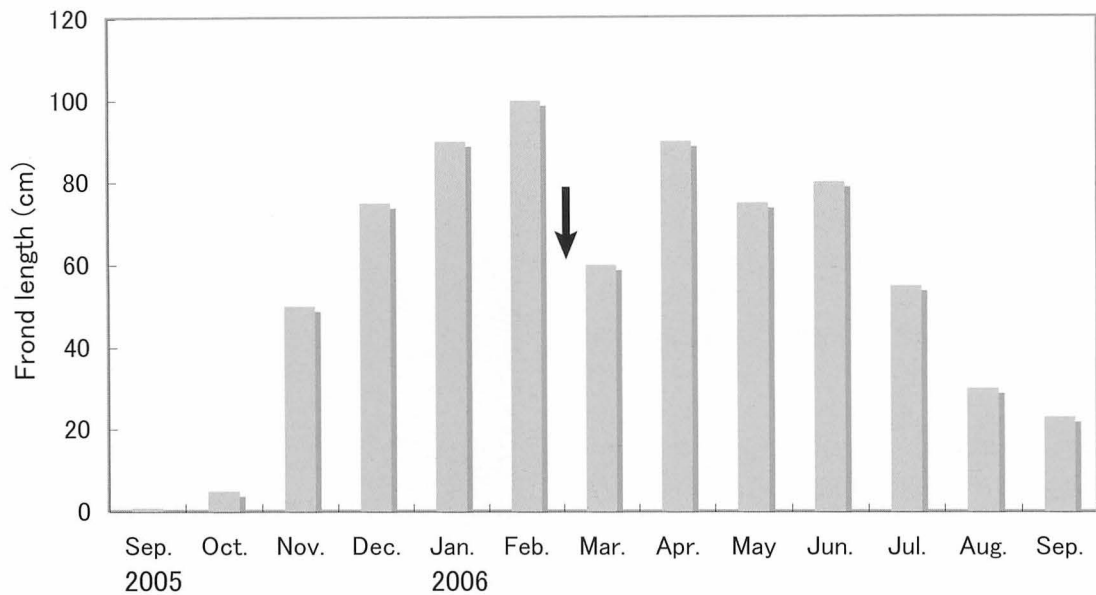


Fig. 5. Seasonal change in thallus length of *Nemalionopsis tortuosa* in a stream shown in Fig. 1. Arrow shows when polluted water flowed in.

状の突起ができてきた (Fig. 3)。このような形態はすでに右田ほか (1999) が報告しているように各地の個体でも見られている。また水路の西側の壁面の日当たりの良い場所では藻体は少なくなり、東側の壁面や底面の個体群が増加した。水路の東側の畑で麦作が終り、水田として水が張られ、梅雨期の増水などでオキチモズクの直立藻体は枯れて流出するものが増えるようである。しかし、9月まで少数の藻体が日当たりの悪い場所に残り、短く太くなった藻体から、細い枝が多数生じていた (Fig. 4)。これらの藻体も9月末までには流失してしまい、次の時期の直立藻体が生長を始めた。

Fig. 5 に示した最大藻長の変化はこの生育地のいくつかの個体群の最大のものを示している。藻体が伸び始める時期は同じ水路の中でも場所の条件 (明るさなど) によって異なっ

ていて、明るい場所で早く出現した群の個体は早く消失し、水路脇の植生の陰になる場所などでそれより遅れて伸長を始めたものは遅くまで残るようである。

朝倉市内にはこの水路のほか陣屋川など4箇所でもオキチモズクの生育が確認された。これらの場所では水路の大きさや水量の違いで流速にも差があり、直立藻体の出現時期や最大藻長に違いが見られる。

引用文献

- 右田清治・高崎真弓 1991. 新産地甘木市の紅藻オキチモズクについて. 長崎大学水産学部研究報告 (69): 1-5.
 右田清治・木村キワ・阪本 治 1999. 紅藻オキチモズクの二新産地について. 長崎県生物学会誌 (50): 10-15.

(〒 818-0103 太宰府市朱雀 6-13-13)